

たきかわ「^わ環のまち」物語
年次報告書(案)
(平成 20 年度版)

滝 川 市

・ たきかわ「環^わのまち」物語 年次報告書とは

滝川市では「たきかわ「環のまち」物語～滝川市環境基本計画・地域行動計画～」(以下、「環境基本計画」という。)という環境に関する計画を平成 18 年 3 月に策定しました。環境基本計画では、滝川市では環境においてどのような取組が行われているか、また実際にはどこまで成果が上がっているのかなどを、毎年、検証することにも取り決めています。この報告書はその一環として前年度の状況などをとりまとめて、皆さんにご報告するためのものです。

「たきかわ「環のまち」物語 ～滝川市環境基本計画・地域行動計画～」とは

ひとくちに環境といっても、様々な切り口がありますが、この計画では次の 4 つの視点(ここでは「物語」と呼んでいます)から目指すべき将来の姿を描いた上で、それぞれにおいて達成すべき数値目標などを設定しています。

1 資源の環(わ) 循環 物語

廃棄物の発生抑制やリサイクルを推進します。

2 創エネ・省エネ 物語

エネルギーの消費抑制、再生可能エネルギーの利活用を推進します。

3 農・山・川 物語

豊かな自然環境、農業にふれあい、育む活動を推進します。

4 人の環づくり 物語

環境づくりを担う人材育成とネットワークづくりを推進します。

計画では次のとおり具体的な数値目標を設定しています。

項目	H16 (参考)	H27 目標値	備考
1 人あたりのごみ排出量	935g	750g	1 日 1 人当たりの排出量
リサイクル率	21.7%	30.0%	
バイオマス資源の利用率	—	—	バイオマスタウン構想で別途規定。
省エネモニターのCO ₂ 削減量	—	前年比平均 6%減	
農業体験年間参加者数	1,193 人	1,500 人	年当たり
石狩川ルネサンスの森市民植樹祭植樹本数	—	7,700 本	H18～27 の累計
環境学習リーダーの人数	—	100 人	H18～27 の累計
環境市民大会の参加者数	—	100 人	1 開催につき

(1) 資源の環(わ) 循環 物語

1 社会的状況等について

2008 年夏、全世界が注目していた北京オリンピックは数々の感動のドラマを残し、幕を閉じました。一方で資源循環の面からも、ここ数年来、オリンピック特需などでめざましい成長を続ける中国経済に引っ張られる形で、国際的に金属くずや廃プラスチックなどの需要が高まり、それらの価格はかつてない上昇傾向を示しました。

日本国内でも各地の工事現場などでは売却目的とみられる鉄や銅、アルミなどの金属資材の盗難事件が頻発し、また国内のリサイクル事業者が原料の確保がままならず、工場が稼働できずに苦況に立たされるといったニュースが社会的現象として取り上げられるといったこともありました。

しかし、オリンピック閉幕後は需要が一段落したことや、世界的な金融危機、原油市場の変化といった状況も加わり、取引価格が一転して急落し、今度はそれまで高値で流通していたそれらの資源物が行き場を失うといったケースが出るなど、リサイクル関連産業から資源回収活動に携わる市民や各種団体に至るまで、この短期間において非常に激しい環境変化を経験しました。

今回の一連の状況を受け、これらの資源が国境を越えた市場経済の枠組みにおいて取引されている現実を前に、こういった外的要因の影響を最小化し、安定的で持続可能な資源循環を担保するような仕組みづくりについて検討が求められるところです。

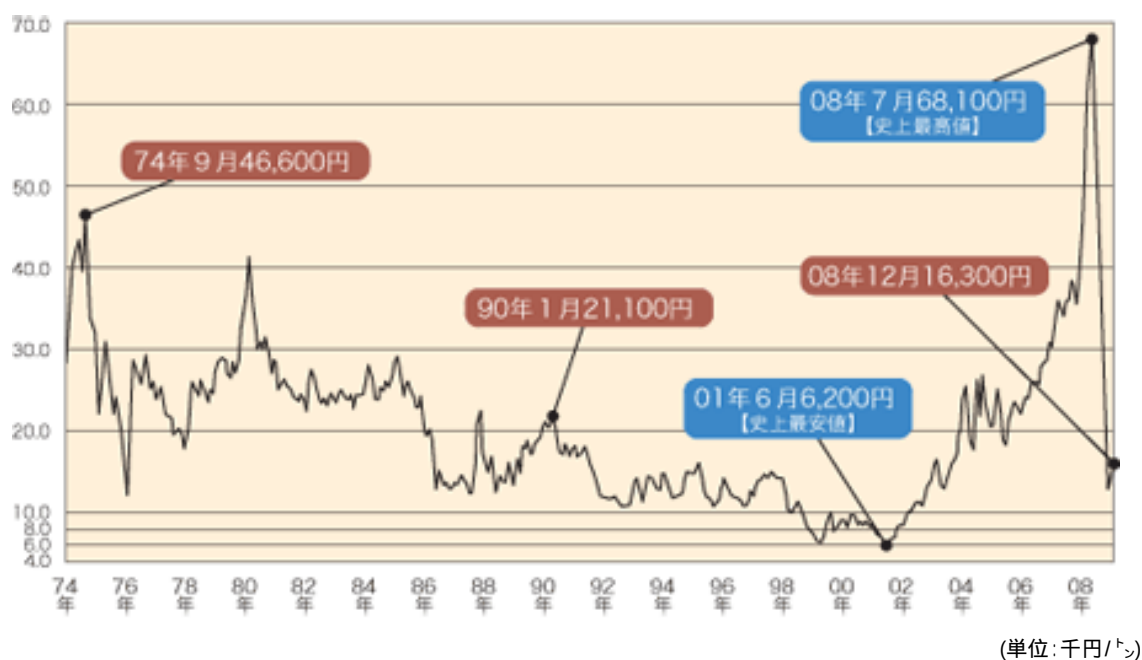


図 1 スクラップ鉄の価格推移

出典：スチール缶リサイクルホームページより

2 平成 20 年度における数値目標の達成状況について

一人あたりのゴミ排出量（資源回収等除く）

目標値（平成 27 年度時点） 750 g/人・日

実績値（平成 20 年度） 873 g/人・日

前年度までの状況

H18 896g/人・日

H19 889g/人・日

リサイクル率

目標値（平成 27 年度時点） 30.0%

実績値（平成 20 年度） 19.8%

前年度までの状況

H18 20.4%

H19 20.4%



前年に引き続き、ゴミ排出量の削減は進んではいますがこのペースでは目標達成は依然厳しい状況です。一方、リサイクル率は前年度を下回ってしまいました。新たな対策づくりが必要となります。

区 分		単位	19 年度	20 年度
収集人口		人	44,394	44,005
収集世帯		世帯	21,047	21,155
家庭系 + 事業系	生ごみ	t	4,050	3,983
	燃やせるごみ	t	7,964	7,717
	燃やせないごみ	t	865	804
	粗大ごみ	t	1,096	1,122
	資源ごみ	t	463	437
	計		14,438	14,063
資源化量 （資源回収以外）	燃やせないごみ・粗大ごみより回収	t	450	410
	生ごみより	t	162	159
	資源ごみより回収	t	450	423
	計	t	1,062	992
資源 回 収	拠点回収	t	43	31
	集団資源回収	t	2,317	2,201
	資源回収の合計	t	2,360	2,232
合 計 （ + ）		t	16,798	16,295
日排出量/人（資源除く） / /年間日数		kg	0.889	0.873
日排出量/人（資源含む） / /年間日数		kg	1.034	1.012
（参考）全国(H19)		kg		—
（参考）北海道(H19)		kg		—
リサイクル率 （ + ） /		%	20.4	19.8
（参考）全国(H19)		%		—
（参考）北海道(H19)		%		—

表 1 滝川市の一般廃棄物回収処理内訳について

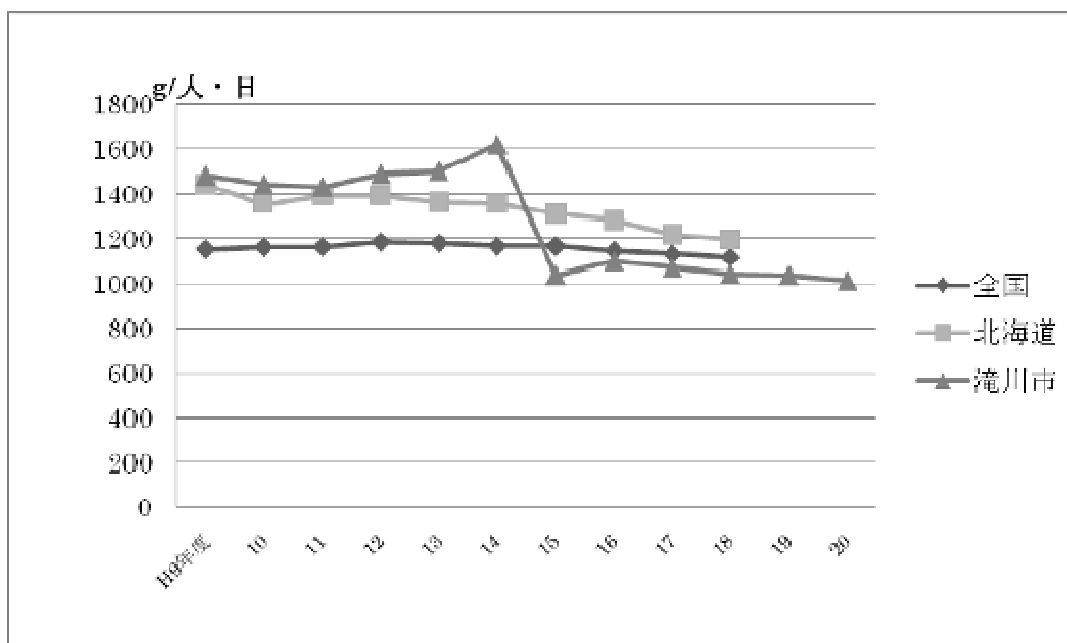


図 2 一人あたりのゴミ排出量の推移

3 平成 20 年度の主な取組等について

(1) 集団資源回収事業

町内会をはじめとした各種団体において、資源の回収を奨励し、回収された資源の量に応じて、補助金を交付するものです。

実施団体数 158 団体

補助金交付額 440 万 1 千円

それぞれの回収量については次のとおりです。

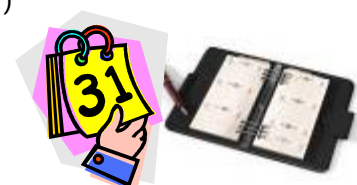
		単位：t	
		19 年度	20 年度
区分	紙パック	8	7
	紙 類	1,843	1,750
	びん類	208	204
	金属類 (スチール缶、アルミ缶、その他金属)	149	135
	ペットボトル	108	104
	その他	1	1
	計	2,317	2,201

表 2 集団資源回収の回収内訳について

(2) カレンダーリサイクル事業

年末に個人や事業所等で受け取るカレンダーのうち、自らは使用する見込のないものを提供していただき、これらを「駅前ひろばく・る・る」(スマイルビル地下1階)において年末年始にかけて展示し、希望者にはその場にて無料でお渡ししました。(1人3点まで)

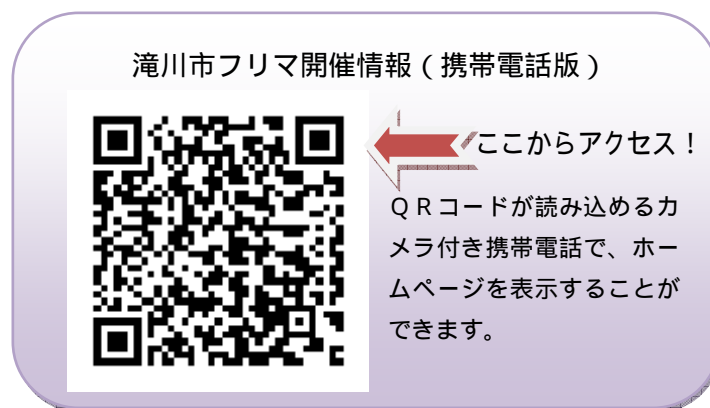
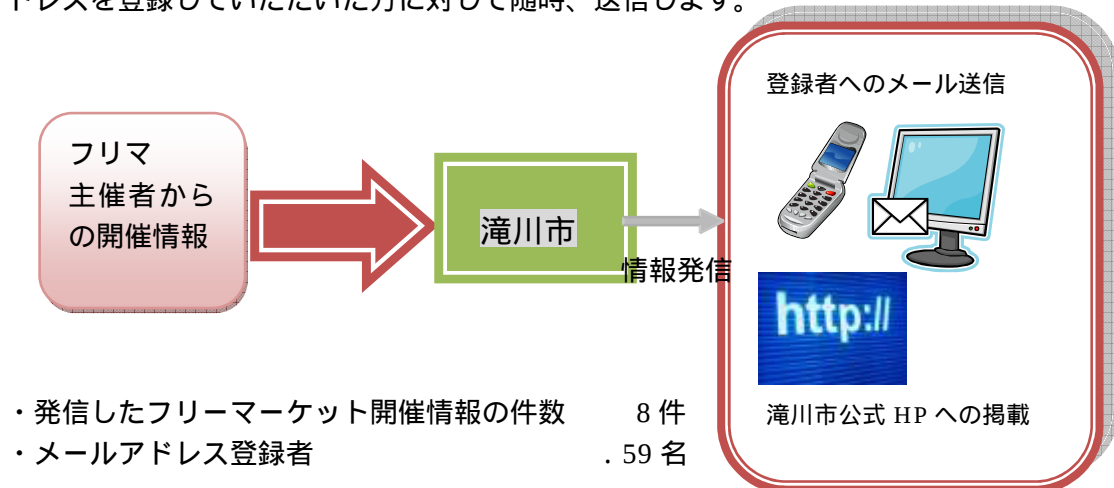
配布数約 1 0 0 0 点



(3) 滝川市フリーマーケット情報交流事業

滝川市内で開催されるフリーマーケットの情報を市が滝川市公式ホームページや電子メールを

通じてPRし、フリマの活性化を支援する取組です。電子メールでの情報は市内外を問わず予めアドレスを登録していただいた方に対して随時、送信します。



(4)リサイクルフェアの開催

市内でも屈指の規模のフリーマーケットが展開される滝川市リサイクルフェアは、今回も空知自動車学校様の御協力をいただき、同校教習コースで開催される「WaiWai フェスタ」と合同イベントとして実施しました。

当日はフリマ以外にも恒例となった古着の買取回収（協力：株式会社キョクサン）や廃食油の回収、生ごみ肥料の即時販売なども併せて行われ、多くの人々の参加のもとで、大きな盛り上がりを見せました。

- ・開催日 9月13日（土）
- ・フリマ出店区画数 94区画
- ・古着の買取回収量 666kg
- ・廃食油の回収量 15リットル

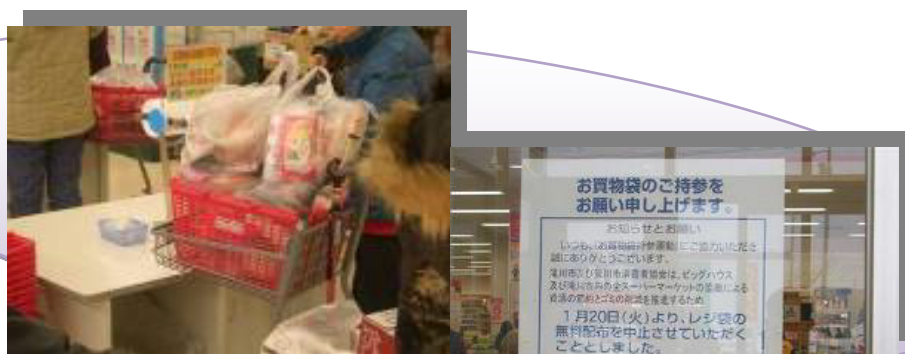


(5)レジ袋利用抑制への取組

滝川市と滝川消費者協会、そして市内で店舗を展開する 5 つの各スーパー事業者の 3 者間において、これまでのレジ袋の過剰利用を見直し、資源の有効利用やごみの減量化を推進すべく、レジ袋利用抑制促進に向けた協定を締結しました。

この協定には、3 者がそれぞれの立場からレジ袋の利用抑制に向けて取り組むとともに、相互連携を進めていくといった項目が盛り込まれました。

この協定に基づき、これらの各スーパー事業者が展開する市内 10 店舗では、順次、それまで無料配付されていたレジ袋の有料化を開始し、ほとんどの消費者は使い捨てレジ袋の代わりに持参したマイバッグなどに商品を入れて持ち帰るようになり、レジ袋の利用が以前に比べて、大きく抑制される効果が現れました。



- ・ 協定締結日

12 月 1 日

- ・ 締 結 主 体

滝川市、滝川消費者協会、市内に店舗を展開する各スーパー事業者 における 3 者協定

協定を締結した各スーパー事業者は次の 5 事業者です。(順不同、敬称略)

生活協同組合コープさっぽろ滝川店、株式会社 JA たきかわサービス、株式会社ダイエー、株式会社道北ラルズ、マックスバリュ北海道株式会社



(協定締結後の記念撮影)

また、これに合わせて、市ではそらぶちキッズキャンプの P R オリジナルエコバッグを制作し、イベントなどで幅広く配付させていただき、レジ袋の利用抑制を呼びかけました。

(→ 14 ページ参照)

(2) 創エネ・省エネ 物語

1 社会的状況等について

2008年はエネルギーをめぐる、私たちに痛烈なインパクトを残す出来事がありました。それは全世界を駆けめぐる原油価格の高騰です。資源エネルギー庁の「エネルギー白書2008」によれば、「2002年の年初には1バレル(=約160リットル：編者注)20ドル前後であった原油価格は、2007年度末には110ドル台に達するなど、この6年間で原油価格5倍以上に上昇した」ということです。

こうした中長期的な傾向が進行していたなかで、昨年度はいわゆる投機マネーの流入等といった要因が加わり、一気に高値傾向が加速化・顕在化し、私たちはかつてないほどに高価な燃料を買わざるを得ない状況に直面しました。

このことで、例えば、自家用車の購入や利用が控えられ、海外旅行の際の航空運賃には「燃油サーチャージ」といった特別付加料金の上乗せが数万円にものぼることも珍しくなくなるなど、連日、こういった原油価格の高騰に関連する様々なニュースが報道され続けました。

この嵐のような急激な価格高騰はやがて8月頃をピークにその後、従来の水準以下にまで落ち着きをみせましたが、しかし先述の白書によれば、中長期的には石油の需給が逼迫してきているという状況に変わりなく、中国やアメリカなどの需要が大きく伸びてきた一方で供給面からは石油の生産能力は減退傾向にあると分析されており、今回の一時的な価格の安定化の先に、この安寧がいつまでも保証されているという状況にはないことを指摘しています。また、原油価格の上昇によって、世界のGDPをマイナス成長させるという推計もあり、この意味からも世界経済が原油への依存体質から脱却するための糸口を真剣に模索すべき時期が来ているといえます。

エネルギー自給率が4%といわれる我が国にとってはさらにシビアな問題として、これからの安定的なエネルギーの確保に向けて、省エネルギーの徹底をはじめとして、太陽光や風力やバイオマスといった再生可能エネルギーなどを経済的で実用的なレベルで活用できるよう取り組んでいく必要があります。

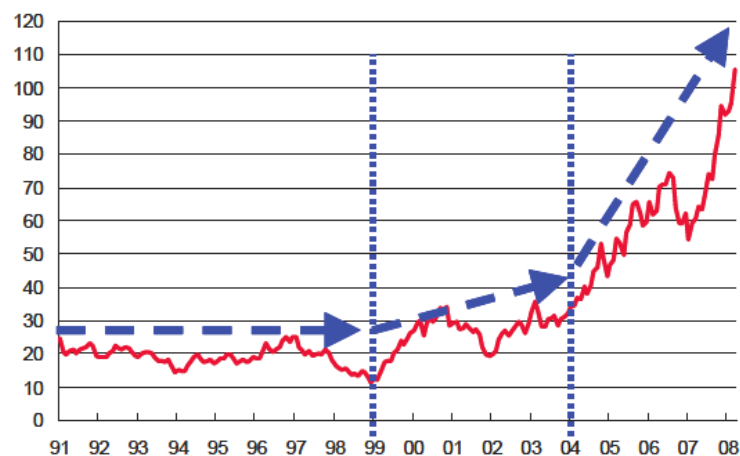


図3 ニューヨーク原油市場先物取引市場の推移

(単位：ドル/バレル、月平均)

出典：「エネルギー白書2008」(資源エネルギー庁)より

¹ 「エネルギー白書2008」(資源エネルギー庁) p2 より

2 平成 20 年度における数値目標の達成状況について

省エネモニターのCO₂削減量

目標値（平成 27 年度時点） 前年比で平均 6%削減

実績値（平成 20 年度） 2.9%減

電力だけを対象に実施した省エネモニター(58 世帯)の結果をもとに算出しています。

前年度までの状況

H18 データなし

H19 4.9%増



前年度よりも多くの参加世帯に御協力をいただき、またモニター期間も3ヶ月から7ヶ月へと延ばし、本格的に取り組んでいただきました。まずはエネルギー使用量の「見える化」の第一歩として、電力以外のその他のエネルギーにも波及してほしいですね。

3 平成 20 年度の主な取組等について

(1) バイオマスのエネルギー利用

生ごみのエネルギー利用

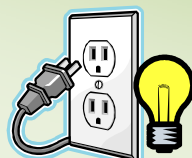
平成 15 年度から稼働している中空知衛生施設組合リサイクリーン（滝川市のほか赤平市、芦別市、雨竜町、新十津川町と共同で運営）では、各市町で回収された私たちの生活から発生した生ごみから、微生物の力を借りて、メタンガスというエネルギーを取り出しています。メタンガスは燃料として電力や熱に変換され施設の運営等に活用されています。

リサイクリーンで生ごみから生み出された電力と熱



3,983 トン

滝川市内から排出された生ごみ
（平成 20 年度）



発電量 699,319kWh

一般家庭の平均年間消費電力に
換算すると約 198 世帯分に相当

ボイラー使用ガス量

67,800 m³

灯油に換算すると約 46,400
ℓ分に相当(熱量ベース)



それぞれ、施設全体の発電量及びボイラー使用ガス量に
滝川市の生ごみ排出割合(57.3%)を乗じた値です。

生ごみで走る現代のデロリアン？

「バック・トゥー・ザ・フューチャー」という映画の中で、未来から戻ってきたデロリアンという車が生ごみを燃料として補給している場面がありましたが、北海道開発局では、国道パトロールカーを使って、リサイクリーの生ごみからできたメタンガスを燃料利用する実証試験を行っており、寒冷時などの厳しい条件下でも支障なく走行できることを確認しています。ひょっとすると、近い将来、映画の中の光景が現実化しているかも知れません。



下水道汚泥のエネルギー利用

滝川市の下水道は石狩川流域下水道(北海道及び 6 市 4 町により運営)に接続されており、奈井江管理センターという下水道処理施設に送られ浄化されます。そこでは、水がきれいにされる過程で有機物からメタンガスを取り出し、得られたガスを熱に変換し利用しています。

	施設全体	滝川市分
汚泥処理量(トン)	3,840	1,613
消化ガス発生量(㎡)	1,022,616	429,499
消化ガス使用量(㎡)	593,417	249,235
→ボイラー燃料として熱利用		
の使用量を灯油に換算した場合の	406,172	170,592
リッター数(熱量ベース)		

表 3 下水道汚泥の発生量及びエネルギー回収等について

及び の滝川市分は汚泥処理量の割合から案分した値です。

植物油の軽油代替燃料利用

市内の一般家庭や学校給食などから回収した使用済み食用油(植物油)を、公用車輛等に SVF システム^{®2}を導入し、自動車燃料として活用しています。

- ・回収ボックス設置箇所数 27 カ所
(うち、民間事業所の協力による設置箇所 9 カ所)
- ・稼働車輛

ごみ収集車	2 台
公用パトロール車	1 台
- ・天ぷら油消費量 約 6,500ℓ



この取組によって、6,500ℓの軽油の消費を天ぷら油(植物油)で代替できたことになり、これと同量の軽油を燃料として使っていた場合に発生したであろう二酸化炭素(CO_2)約 17 トンをそのまま削減したのと同じ効果があったといえます。³



天ぷら油で走る車はこのステッカーが目印です。

(2)新エネルギー教室の開催

滝川市が資源エネルギー庁及び経済産業省北海道経済産業局との共催により、市内の小学校 2

² Straight Vegetable Fuel システム[®]の略で、一般的に採用されている植物油の軽油代替燃料である BDF と異なり、車輛ごとに専用装置とタンクを搭載することにより、植物油そのものの燃料利用を可能にする。

³ 植物由来の燃料(バイオ燃料)の場合、燃焼したときに排出される二酸化炭素は、その原料が植物として生育している間に光合成により大気中から吸収したものに由来することから、実質的に二酸化炭素の増減に影響しないとみなされる。

校において「新エネルギー教室」を開催しました。

講師には漫才コンビ「せーじ・けーすけ」さんを迎え、児童たちはユーモラスなやりとりを通じて、新エネルギーの基本的な知識や進行する温暖化の影響などについて、楽しく学習しました。



また、後半では実際に風力発電の実験キットを使い、自作のプロペラを取り付け、うちわで起こした風による発電量を競う実験なども行いました。



- ・開催日時 10月10日
- ・会場及び対象学年 (午前) 第一小学校 6年生 57人
(午後) 東小学校 6年生 64人

(4)省エネモニターの実施

昨年度に続き、なるべく多くの方々に御参加いただけるよう、電力消費量だけを対象とした省エネモニターを実施しました。結果は次のとおりです。

■モニター参加世帯数：58世帯

■モニター対象期間：平成20年8月～平成21年2月検針分

比較対象の平成19年度データは北海道電力から毎月、戸別に送付される「電気ご使用量のお知らせ」に記載されている「前年同月分」のデータを利用しています。

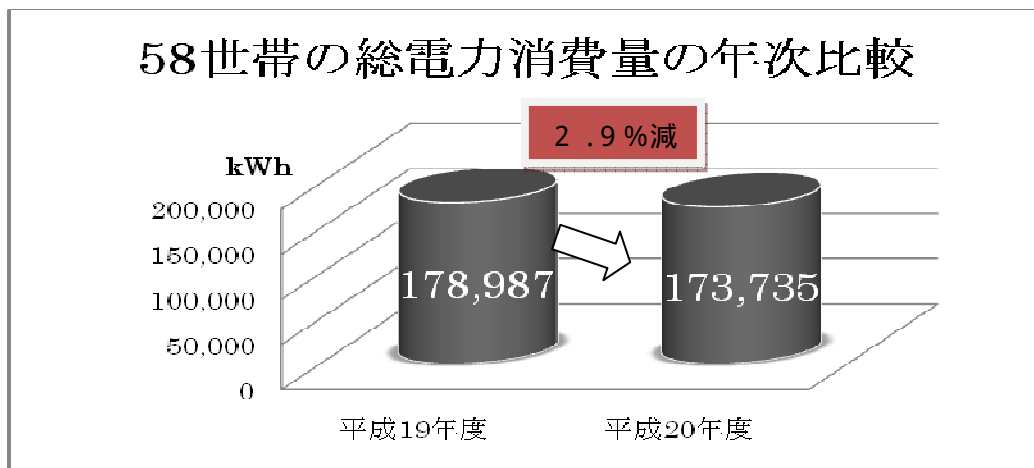


図4 モニター世帯における電力消費量の推移について

(3) 農・山・川(ノー・ザン・リバー) 物語

1 社会的状況等について

「創エネ・省エネ物語」では、原油価格の高騰について取り上げましたが、平成20年はエネルギー問題と並んで、食糧問題が私たちの生活を直撃した年でもありました。

下表のとおり、世界はこれまでも幾度と穀物価格の一時的な上昇を経験してきましたが、そのほとんどが干ばつや冷害といった気象状況に起因する不作や、台風などの自然災害による需給バランスの変動によるものでした。しかし、今回の急激な価格上昇の要因として、農水省の資料では、「穀物市場への投機資金流入といった要因もある」としながらも、「基本的には、中国等の途上国の経済発展による食料需要の増大、 バイオ燃料による需要増大、 地球規模の気候変動の影響といった中長期的に継続する構造的な要因」を挙げており、つまりは、エネルギーと同様、食糧についても一時的な乱高下にとどまらず、今後も上昇傾向は継続していくであろうという見方を採っています。しかも、 や といったようにエネルギーや環境の分野とも不可分な関係にあり、問題はますます複雑化しています。

こういった状況のなかで、昨今、北海道固有の豊かで広大な自然環境を背景とした商品のイメージの向上とともに、多くの関係者の積年の努力の成果として、道産品が改めて見直されてきています。その一例として、北海道米はかつての「食味が劣る」といった評価を跳ね返すべく、地域に適した栽培技術の向上や販売促進に向けたPRなどの努力が奏功し、ブランド米として名高い新潟米と肩を並べるほどの実績を残すまでとなりました。

食糧の確保は私たちが生命を維持していく上で最も重要な課題の一つといえますが、今後、地球規模での人口問題なども考えた場合、海外への依存がさらに難しくなる状況のなかで、自分たちの住む地域の農地をはじめ、川や空、山林、大地などを巡る大きな循環に目を向けながら、改めて私たち人間と自然との関わりについて見直していかななくてはなりません。

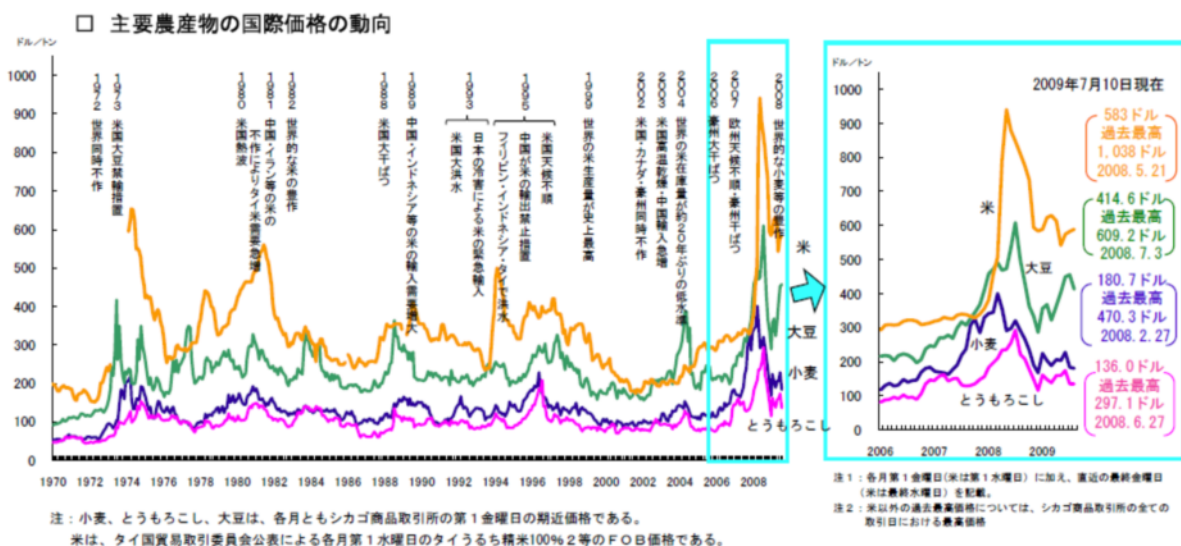


図5 主要農産物価格のこれまでの動き

2 平成 20 年度における数値目標の達成状況について

農業体験（グリーンツーリズムを含む）年間参加者数

目標値（平成 27 年度時点） 1,500 人/年

実績値（平成 20 年度） 1,311 人/年

一部データ提供協力：中野ふぁーむ様、中村農園様

前年度までの状況

H18 1,237 人/年

H19 1,274 人/年

「石狩川ルネサンスの森市民植樹祭」植樹本数

目標値（平成 18～27 年度累計） 7,700 本

実績値（平成 20 年度末累計） 3,200 本

（うち平成 20 年度 600 本/年）

前年度までの状況

H18 2,100 本/年

H19 500 本/年（累計 2,600）



農業体験については、学校や職場単位での申込も増えてきているようで、
滝川の観光資源としてもバックアップしていく必要があります。
植樹は今後も目標達成に向けて、計画的に進めることが求められます。

3 平成 20 年度の主な取組等について

(1) 地域農業の振興と住民との交流促進のための取組

ふれ愛の里・秋の体験と収穫祭

開催日 平成 20 年 10 月 5 日

内容 体験そば打ち・パンづくり

野菜収穫体験、フリーマーケット、玉ねぎ詰め放題コーナー

滝川産新米コーナー、新そば販売 P R、

ハルコタカ製品販売 P R

親子農業体験塾

開催地：滝川市農業試験地他農業者ほ場

参加者：市内小中学校親子 16 組 55 名

第 1 回 田植え・畑作物・苗植え、種まき、アスパラガス収穫体験

第 2 回 田んぼの生き物調査、畑の草取り、トマト収穫体験

第 3 回 畑作物の収穫体験・食育バランスガイド解説

第 4 回 米の収穫体験

第 5 回 脱穀・籾摺り・精米体験・りんご収穫体験

(2) 豊かな森づくりのための取組

市民植樹祭

開催日 平成 20 年 6 月 15 日 丸加高原にて

参加者数 230 人

滝川遊学会事業

冬の森あそび 第一小学校・第三小学校学校林にて

参加者 7 名

(3)川との共生に向けた取組

まちづくり・川づくり協議会の活動

- ・石狩川クリーンアップ作戦（美化活動）・石狩川再生の森植樹祭
石狩川築堤の蛸の首樋門から北海道の森、ラウネ川とその周辺の清掃活動
参加者 120 名 ゴミ回収 1,400kg、植樹 144 本
- ・子どもの水辺再発見プロジェクト（滝川の自然を探ろう）
丸加高原とラウネ川 参加者 16 名
- ・ミントチ祭り（交流連携事業）
西滝川・ふれ愛の里周辺 参加者 1,000 名
- ・石狩川の川旅（川の自然を体感）
深川～江部乙 参加者 18 名



滝川遊学会事業

空知川水生生物調査
参加者 16 名



(4)自然とのふれあいへの取組

「たきかわ環境フォーラム」（民間団体）による主な活動状況

■エコカフェの開催（全 5 回）

テーマに沿って講師を中心に身近な環境問題について語り合う集いです。

「みんなで関わる森づくり、森をそだてる家づくり」（もりねっと北海道：陣内雄さん）

「雨竜沼湿原に魅せられて」（雨竜沼湿原を愛する会：佐々木純一さん）

「空知の炭鉱、今・むかし」（空知地方史研究協議会：相良主彦さん）

「日本初の入山制限—峠（きりぎし）山の現状」（峠山自然保護協議会：山岡桂司さん）

「泥川のトゥアッチャウシ」（たきかわ環境フォーラム：河野敏昭さん）

■北海道洞爺湖サミット開催記念『STOP 温暖化 拡大版エコカフェ』

○「北極のナヌー」上映会

○講演会「地球の未来に貢献しよう！～中国・内モンゴル自治区の砂漠化やマレーシア国サバ州の熱帯林の消失と私たちの生活～」（北海道地球温暖化防止活動推進員：油津武雄さん）

■ECOフットパス散策会「初秋の東滝川を歩こう！」

■東滝川地区水生生物調査実施（滝川遊学会と合同で開催）

■第 5 回森のまつりピクニックコンサート開催 など

たきかわ環境フォーラム（代表：平田剛士氏）は 2003 年に設立され、「ふるさとの自然、再発見」を合い言葉に、独自に様々なユニークな活動を展開されていることから、ここでその活動実績の一部について取り上げさせていただきました。 →たきかわ環境フォーラムホームページ <http://ecoup.hp.infoseek.co.jp/index.html>

「そらぷちキッズキャンプ」実現化支援事業

市は、滝川の豊かな自然を生かし、小児がんや心臓病などの難病の子どもたちが安心して自然体験を楽しむことができる「そらぷちキッズキャンプ」の実現化への取組に対して、支援を行っています。既に行われているプレキャンプなどを通じて、子どもたちや家族、ボランティアスタッフの方々など、多くの皆さんの心の環ができています。

- 「一般財団法人そらぷちキッズキャンプ」として法人格を取得
- そらぷち応援商品の発売

滝川産小麦「ハルユタカ」を使用した生ラーメンや滝川産米「ななつぼし」をそらぷち応援商品としてパッケージなどにキャラクターやロゴを配した商品を発売しました。

- たきかわ「そらぷち」と「エコ」のシンポジウムを開催

雑誌「ソトコト」発行・編集人である小黑氏をお招きし、自身が長年、関わってきたアフリカでの体験談などを交え、エコに対する考え方など楽しいお話をいただきました。

- 開催日 2月27日(土)
- 会場 ホテル三浦華園
- 内容
 - 1 基調講演「エコライフとボランティアライフ」
講師：(株)トドプレス代表取締役 小黒 一三 氏
 - 2 座談会「たきかわ ぷち・エコへの道！」
登壇者：そらぷちキッズキャンプを創る会事務局長 松本 守 氏
(株)トドプレス代表取締役 小黒 一三 氏
滝川消費者協会会長 岩橋 智江 氏
帝人ファイバー株式会社 池田 裕一郎 氏
滝川市長 田村 弘



当日の来場者全員に「そらぷちキッズキャンプ 応援オリジナルエコバッグ」が配付されました。



このエコバッグはここがエコ！

そらぷちキッズキャンプを多くの方々に知ってもらうとともに、買物時のレジ袋の利用抑制をサポートするべく、市ではオリジナルエコバッグを制作しました。このエコバッグの素材は帝人ファイバー(株)が開発したリサイクル技術を活用したもので、たとえ破れるなどしてもう使えなくなっても、きちんときめられたリサイクルルートにのせていただくことで、専用の工場で分子レベルにまで戻し、常に一定品質を保った新たな製品へと生まれ変わらせることができます。このことから、この製品を含めたリサイクルシステムが「完全循環型」リサイクルともいわれています。

(4) 人の環(わ)づくり 物語

1 社会的状況等について

G8北海道洞爺湖サミットは7月7日に開幕し、その中の主要テーマの一つとして環境問題が話し合われました。これに合わせて、地域の自治体や企業などが、環境への先進的な取組を各国首脳にアピールするなどの試みも行われました。また、苦境の中で、大きな変革への期待を背負って誕生したアメリカのオバマ政権が掲げたのは、いわゆる「グリーンニューディール」政策でした。

いまや、「環境」は世界や国を動かす一つの重要なキーワードであり、例えば自動車産業をはじめとして、この領域における国際間・企業間の競争は激しさを増しています。特に日本はこれまでに培ってきた様々な環境技術を活用しながら、世界に向けて日本の先進性を打ち出していく絶好のチャンスであるともいえますが、それを継続的に支える人材の育成にもっと目を向けていく必要があります。

わが国では、「理科離れ」あるいは「理数離れ」という言葉が聞かれるようになって久しくなりますが、環境の議論を進めるに当たり、これまでなら「環境に良い」「エコである」「地球にやさしい」といったイメージ評価で充足されてきたものが、昨今ではいわゆる「見える化」といった数値的な効果測定等に関する議論が広がりつつあるなど、消費者の立場からも環境配慮型商品などの見きわめに厳しい目が向けられるようになりました。

環境問題が人々の活動に起因する部分が少なくないといわれるなかで、今日の国際情勢、社会経済活動等の現状を概観したときに、もはや人々の意識の変革だけをよりどころに解決の糸口を探ることが困難であるという状況を前に、これを克服するための知恵やシステム、技術、ルールなどを生み出す人材育成と、それを最大限に生かすためのネットワーク構築や国際間の連携等の必要性が今よりもさらに声高に叫ばれることになると考えられます。



G8北海道洞爺湖サミットの様子（首相官邸ホームページから）

2 平成 20 年度における数値目標の達成状況について

環境学習リーダーの人数

目標値（平成 18 年度～27 年度累計） 100 人

実績値（平成 20 年度末累計） 60 人

（うち H20 年度 34 人/年）

前年度までの状況

H18 10 人/年

H19 16 人/年（累計 26 人）

環境市民大会 の参加者数

目標値 100 人/回

実績値（平成 20 年度） 147 人/回

前年度までの状況

H18 107 人/回

H19 150 人/回

環境市民大会は環境に関する市民からの意見等を聴取する場として市が毎年、開催することとしています。



環境問題を楽しくわかりやすく、そして説得力あるデータなどをもとに多くの市民の皆さんに説明し、理解を求めていくことが重要です。そのためにも、今後も幅広い分野にわたり、多様な人材育成を進めていくことが求められます。

3 平成 20 年度の主な取組等について

(1)環境学習リーダーの養成講座の開催

20 年度は省エネモニターの実施規模の拡大にも合わせて、エネルギー、特に省エネルギーをテーマとして設定し、専門家の講師をお招きして、楽しい実験なども交えながら、暮らしに役立つ省エネの知識を学習しました。

演題「電気面白発見！明治から平成 ～暮らしの変遷と省エネの技～」

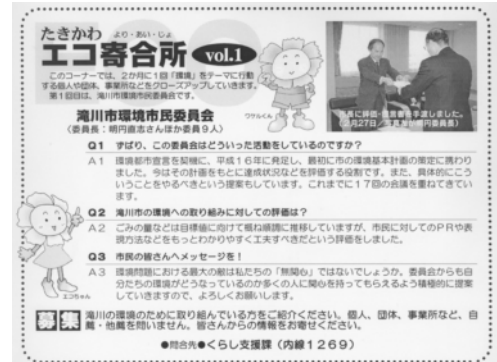
講師：エネルギーコミュニケーター（経済産業省） 藤田 明美 氏



(2)広報たきかわへの「エコ・寄合所（よりあいじょ）」コーナーの掲載

広報たきかわに2ヶ月ごと計6回、環境やエコに取り組む個人や団体をピックアップするコーナー「エコ・寄合所」コーナーを設け、市民の皆様にご紹介させていただきました。

- ・第1回（5月号） 滝川市環境市民委員会 様
- ・第2回（7月号） 伊藤 規子 様（農業・現滝川市環境市民委員会委員）
- ・第3回（9月号） 平田 剛士 様（たきかわ環境フォーラム代表）
- ・第4回（11月号） 滝川消費者協会 様
- ・第5回（1月号） ㈱サークル鉄工 様
- ・第6回（3月号） 東小学校児童会 様



(3)たきかわそらぶちとエコのシンポジウム開催（再掲）

同セミナーを環境市民大会として位置づけ、参加者に平成19年度の年次報告書の概要をご報告申し上げるとともに、環境政策に対する御意見をいただく機会として会場でアンケートを実施いたしました。

・アンケート結果の概要

アンケート配布者 147 名 回答者数 97 名、回収率 65.9%
回答者性別内訳 男性 28 名（28.8%）女性 69 名（71.2%）

（設問1）

普段の生活のなかで環境問題を意識することはありますか？

	回答数	割合 (%)
ある	63	66.0
たまに意識することがある	31	32.0
ほとんど意識しない	3	3.0

（設問2）

滝川市の環境政策に対して自由に意見をお書き下さい。（記述式）

（回答から一部を抜粋）

- 日常のなかで、市民へのPRが不足しています。PRによって、多くの人に参加してくれると思います。
- ごみの分別をもっと進めるべき。（古紙、廃プラスチック類）
- 雪がこんなに多い地域にいるのだから、雪を利用することを考えたらどうか。
- 森林の手入れや植林をもっとしてほしい。
- 道路にペットボトル、紙くず、ペットの糞などが多く見られるようになった。
- 滝川が今取り組んでいることをいかに育てていくか、環境に特化したまちづくりを積極的に進めるべき。

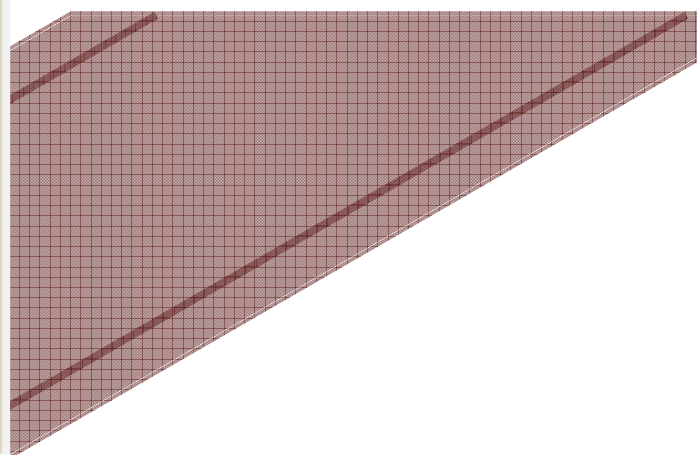
など多数の意見が寄せられました。これらの意見については、今後の施策立案のための参考とさせていただきます。

環境都市宣言

わたしたちのまち滝川は、石狩川と空知川に育まれた豊かな大地と自然の恵みを受けて、健康で文化的なまちとして発展してきました。

しかし、今、人々の営みは、豊かな自然や調和のとれた地球環境に大きな影響を与えています。

21世紀を迎え、わたしたちは、地域の優れた環境を再生し、美しい地球を未来に引き継ぐため、環境にやさしいまちづくりに努めることを誓います。



平成15年1月1日

滝 川 市



たきかわ「環のまち」物語

— 年次報告書 —

(平成 20 年度版)

〒073-8686

北海道滝川市大町 1 丁目 2 番 1 5 号

滝川市 市民生活部くらし支援課

電話 0125-23-1234 内線 1269

FAX 0125-24-0154

e-mail kurasi@city.takikawa.hokkaido.jp